

# 今後、「坂本城の石垣」はどのようなのか

(大津市市民部文化財保護課の回答)

織田信長の安土城に次ぐ豪壮華麗な城と文献で紹介されていた「幻の名城」がついに姿を現しました。「全長約 30mに及ぶ石垣が出土した」と、令和 6 年 2 月 7 日、大津市より発表されました。信長の巨大船が入港した波止場や、明智光秀が客人を船に乗せて城内を巡ったという往時の光景が想起されます。それを受けて、令和 6 年 2 月 10 日・11 日の両日現地説明会が実施され、全国からその説明会には 2,000 名を超える見学者が来られ、行列ができるほどのフィーバーぶりでした。



その後も発掘調査が実施されていたようですが、5 月 30 日から 6 月 4 日にかけて、発掘現場が突然埋め戻されました。そのことに対して、「今後、坂本城の石垣はどのようなのか」と、住民の皆さまからよく尋ねられますが、それに私どもには応えることが全くできません。その声（坂本城の石垣はどのようなのか）に応えるにはどうすればよいのか。当事者の大津市に直接伺いました。その回答は次の通りです。

**質問 1** なぜ、早急に発掘現場が埋め戻されたのですか。

## 大津市の回答

発見された石垣を含む坂本城の遺構は、適切な状態で保全することが本市の責務と考えております。出水期を迎えて、大雨により、石垣等が崩壊するおそれがあることから、遺構の保護のため、梅雨入り前に一時埋め戻しを実施いたしました。なお、発掘調査地は、本市がお借りし管理しております。不法投棄や立ち入り等を防ぐため、今後もフェンスによる囲いは続けていく予定です。



**質問 2** 近隣で発掘調査がされていますか(以前、キーエンス敷地にて発掘調査がされていたようですが、そのあたりも含めて回答下さい)。

## 大津市の回答

坂本城跡の調査は、これまで開発に伴って発掘調査を実施し、昭和 54 年に湖岸近くで行なったものがそのはじまりです。調査では多くの瓦などの遺物が出土し、それらは坂本城の本丸の一部と考えられます。また、現在も遺跡の範囲内において、開発計画に伴う事前調査として試掘調査等を随時実施しています。



**質問 3** 大津市は「歴史的発見」をどのように後世に伝えていこうと考えられていますか。

## 大津市の回答

本市では、発見された遺構を未来永劫守り伝えていくため、国による史跡指定を目指しています。国による史跡指定が得られれば、国から支援が得られ、活用・保全の選択肢が大幅に広がります。そのため、先ず、国の史跡指定に向けて全力で取り組んでいます。坂本城跡を地域にとって、よりよい歴史文化遺産とするため、下阪本学区の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。